

# ☀️☁️☀️ 余市町でおこったこんな話 ☁️☔️☁️

## 余市町でおこったこんな話 その156

余市町の埋もれた歴史等を紹介し、改めて余市町を再認識するコーナーです。

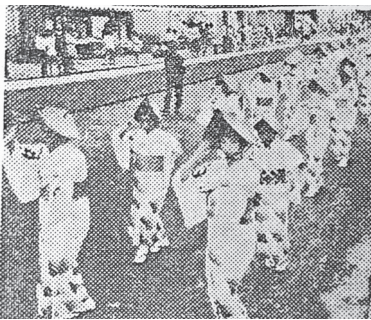
### 北海ソーラン祭り (その2)

昭和44(1969)年8月1日に始まった北海ソーラン祭りは、納涼花火大会で幕を開け、翌2日はソーラン踊りパレードです。午前10時、興浜産業前(ヌッチ川河口右岸)を出発した大パレードは圧巻の景色でした。先導の白バイ、国旗と町旗を掲げたボーイスカウト、余市高校ブラスバンド、竜旗(竜を描いた旗?)、登り竜、竜神みこし、スピーカーからソーラン節を流すソーラン丸、そののゆかたの町内各婦人会員が「延々と」続きました(同年8月4日の新聞記事)。

数百人のパレードは午前中、沢町、富沢町を練り歩き、午後1時半から余市町役場前を再び出発、入舟町、大川町、黒川町をまわってゴールの商工会議所前(黒川町4丁目、登川沿い)に着いたのは5時を過ぎる頃でした。

翌45年は余市町を中心とした実行委員会が主催、町ぐるみの参加を呼びかけたと新聞記事にあります。この年は8月1日と2日の両日にわたって「七十年代をひらく余市の産業、文化の祭典」をキャッチフレーズにして、総合物

産展、ソーラン踊りパレード、音楽パレード、ソーラン祭り大会、ソーラン踊り大行進、余市川花火大会、商店街サマーセールなどの7つの行事が開催されました。総合物産展は1日朝9時半から、商会館を会場にして町内21の企業、団体が出店、農水産物、加工品、縫製品、工業機械、建材や電気製品などが並びました。記事によると余市銀座商店街の「だんな衆」数十人が新しい振付けのソーラン踊りを披露しました。音楽パレードは大川小、旭中、余市高校と総勢200人が花火の合図で大川小を出発、「聖者の行進」、「世界の国からこんにちは」など軽やかなマーチを披露しながら中央会場(旧商工会館の外、現在の中央公園付近)へ向かいました。



▲大川町を練るソーラン踊りパレード (昭和45年8月4日の新聞記事より)

と町東部に分かれて行われ、西部方面は婦人会を中心とした。230人が沢町小学校に集合し、踊りの列は午後7時から町西部方面を練り歩き、エビス座跡(現在の沢町お買い物駐車場)では「正調ソーラン会員」による正調ソーラン節と一緒に盛り返り上りました。

特設ステージのある中央会場では午後2時半から4時半まで、ソーラン踊り大会と銘うって、正調ソーラン節、子どもソーラン踊り、料飲店従業員らによるソーラン踊りなどが披露されました。日中の気温が25℃ほどと、のぎやすい天気の中、2日目のパレード「ソーラン祭り大行進」でお祭りは最高潮を迎えました。午後6時半から、竜神の山車を先頭に入舟子供会、芸能文化連盟、大川、黒川婦人会、漁協と農協の婦人会、沢町婦人会、余市銀座街の店主の方々が続きました。お祭りを伝える新聞記事の見出しは「踊りの列に人のヤマ 大成功のソーラン祭り」、「大行進は、人と車でござり」返す繁華街に延々と続き、「とあります。お祭りの締めは前年よりも多い550発を打ち上げた余市川の花火大会でした。翌46年まで「ソーラン祭り大行進」と花火大会の日程が重なっていました。大会の踊り手さん達が花火を見られないことから、同47年からは「大行進」は初日に変更されました。

### 輝きつづける北海道

### 「北海道総合計画」について [2016(平成28)年度~2025(平成37)年度]

「北海道総合計画」は、すべての道民の皆様が、今後のめざす姿と進むべき道筋を共有し、その実現に向けて、お互いに連携を深め、力を合わせて取り組んでいくための指針として、平成28年3月に道が策定しました。

この計画に沿って、人口減少問題や本道の強靱(きょうじん)化などにしっかり対応し、北海道の多様な価値と強みを活かした取組を進めていきますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

■北海道では、道民の皆様にご理解いただくため、団体・企業や学校、市町村等を対象に出前講座を実施しています。「北海道総合計画」及び出前講座の詳細は、下記のホームページをご覧ください。北海道総合政策部政策局計画推進課にお問合せください。

「北海道総合計画」ホームページ [http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sks/hokkaido\\_sogokeikaku.htm](http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sks/hokkaido_sogokeikaku.htm)

問合せ先 北海道 総合政策部政策局 計画推進課 ☎011-204-5630